

関東地区会（2019年度第2回）定例研修会報告

主 催：日本人間関係学会 関東地区会
実施日：2019年7月13日（土）14時～17時
会 場：サンシティホール第4会議室
担 当：白石 京子

本年度テーマ：「生活者としての現実を考える」

－情報化社会における生き方・あり方－

「ヒューマンリレーション・スキルトレーニング（Human Relation Skills Training）=HRST」

本会の小テーマ「情報化社会と学習意欲 青年期の学習と人間関係」

<趣旨>

近年、社会の情報化が急速に進展し、人間関係の希薄化、共通基盤や体験の喪失が叫ばれている。特に青年期の発達過程においては、自分の行為を他者と比較したり承認してもらったりするコミュニケーションの機会が減り、結果として学習を含めた様々な事柄に積極的に取り組む学習意欲が減退していることがわかっている（文部科学省 2015）。実際、複数の研究は青年期のコミュニケーションと学習意欲の関連性、コミュニケーションの機会を増やすことにより、学習意欲が向上しうることが指摘されている。しかしながらコミュニケーションスキルが未熟な青年には積極的にコミュニケーションに取り組みづらく、スキルを向上させる支援が必要となる。本講では、実例や研究を学びつつ、青年の学習意欲の向上、情報社会の中での関わり方を探求する。

<展開>

I部（14:00～15:20）

1. 本研究「大学生の学習意欲とHRSTの関連」から

（1）問題 方法 結果 考察

【方法】2018年12月に大学生94名に対し、授業中に質問紙を配布・回収。・学習意欲を測定する尺度（浅野,2016）：積極性関与、継続意志に分けて学習意欲を測定。・青年・成人用ライフスキル尺度（LSSAA；嘉瀬ら,2016）：意志決定、対人関係、効果的コミュニケーション、情動への対処のスキルを測定。・学習動機尺度（浅野,2002）：学習動機を交友志向、

自己向上志向、経験関与的課題志向、職業・専門性志向、特定課題志向に分けて測定。そして得られた結果に対し、学習意欲とライフスキル、学業の相関関係を分析しました。今回は、ライフスキルの中のコミュニケーションスキル（共感性・自己認知・効果的コミュニケーション）に着目して、その相関をみることにした。

【結果】授業評価、コミュニケーションスキル及び学業、学習動機、学習意欲の相関を調べた所、学習意欲と有意な正の相関があったのは授業評価のうちHRST評価の「生活への活用」、「共感する能力」、「自己認識」が関連していた。また授業評価のうち「共に学び」は、学業、学習動機と比較的強い正の相関があった。学生の学習意欲には、理論に加えて実践（行為法）を行うことや「共に学ぶ」環境作りが重要であることが示唆された。

2. 情報化社会と私たち

理論編を終えて、その感想と自分の今日の課題について述べてもらおう。

ウォーミングアップ（心理劇に入る前の導入）

「ローリングの技法」（考案：松村康平）

- ① ボールペン「これはボールペンです」と、隣へ送ってください。
- ② ボールペンを何か物に見立てて隣へ送ってください。
 - これサクランボです。
 - 赤ちゃんです。
 - 婚約指輪です。
 - （真っ赤な）傘です。
 - アジサイです。 等
- ③ 心理劇的な場面・・・相手がどういうことをイメージしているのか考えながら隣へ伝えてください。
 - 夫が倒れた。救急車を呼んで。
 - 洋服が欲しい
 - 盆栽の剪定
 - オリンピックチケットが欲しい
 - 鍵がない。マスターキーを持って来て。 等

コメント

- ・物を見立ててあげる役割（主演者）とそれを受け止める役割（補助自我的）を同時に体験できる技法として、ローリングの技法を体験していただいた。
- ・③ではより、心理劇的役割行為（サイコドラマティック・ロール）が展開していく中で、自由に創造的な演者としての発想を受け入れて、展開していく補助自我のスキルが育つ。また、同時に演者側も相手に意図やイメージが十分に伝わるように表現することが必要となるため、演者としてのスキルも育つ。

Ⅱ部 (15:30～16:00)

心理劇・ロールプレイ (スタッフと参加者で組む)

- ・展開：情報社会の中での共感を体験する。
- ① 朝、起きて会場へくるまでを出来事(情報)を述べる
 - ダブルの補助自我：相手の言葉をありのままに、受容・共感しつつ聴く。
 - トリプルの補助自我：相手を受容・共感しつつ、発展的に聴くことができる。

Ⅲ部 (16:00～16:30) シェアリング・まとめ

【感想】

- ・アンケートに緊張したが楽しめた。また参加したい。
- ・記録の役割が多いが本日は楽しめた。
- ・大ベテランと組んで楽しめた。共感からトリプルに発展した。
- ・傾聴と言うのはそのまま聞くのが基本であるが、真剣に投げかけてくれることも大切。体全体で聞く姿勢がうれしい。
- ・ベテランの専門家と組めてうれしい。全身で傾聴していると言われて驚いた。
- ・このような場があるのはうれしい。
- ・相手が何を伝えたのかなと思いつつ聞いている。皆さんベテランばかりで緊張した。
- ・久しぶりに参加した。コミュニケーションスキルを体得できる場だと思った。

【監督総括】

- ・肯定性の原理を踏まえた関わり・共感性について行為法を実践した。
 - ダブル：共感しつつ共にいる。トリプル：受容しつつ一緒に先を創造する。
 - 肯定性の原理：良いところを返す。「聞きますよ」と肯定していくことが大事。

以上

<次回 定例研修会のご案内>

開催日：2019年9月21日(土) 14時から

開催場所：越谷市中央市民会館第10会議室